鯨史稿

四

130
6
72

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

鯨鮫史稿

四

130
6
72

東京圖書館
和書門
類 一三〇 中五
函 五 中
架 七 二
號 六
冊

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

明治十九年一月十六日購求

東京帝國大學圖書之印

鯨史稿巻之四

附録第四

世界捕鯨地

大日本

ヒヅ子ル曰ク日本人ハ高麗ノ海ニテ捕フコトオヽルトヅヽクニ出ツ後並ニ同シ

按ニ此説ハ壹岐對馬邊ニテ鯨ヲ捕フルヿヲ云カ

世界ニテ鯨ヲ漁スル所アリト云ヘ𪜈未タ

我日本ヨリ盛ナルハアラジト聞フ故ニ
我國ハ國別其地名ヲ後ニ載ス因テ重テ
此ニ出サス

支那海南

ヒュブ子ル曰ク支那人ハ海南ニテ捕フ
按ニ大和本草ニ月山叢談ノ捕法全ク我ト同
シト云ハ支那何地ノ法ナルニヤ未詳ナラス

亞墨利加諸島

ヒュブ子ル曰ク亞墨利加人ハ本洲諸島ノ邊
テ捕フ
按ニ此所謂諸島ハ小安知列及大安知列ノ諸
島ヲ指シテ云カ因テ増譯采覽異言ヲ考ルニ
小安知列及ヒ大安知列ノ諸嶋ニテ鯨ヲ捕ル
ヿ見エス然レトモ小伊西把儞亜ノ嶋ハ即チ大
安知列諸島ノ内ニシテ小安知列諸島ノ西ニ
アリ且ツ龍涎香ヲ産スルノヿモ見エ此外ニ
又諸島ト指スヘキ嶋モナケレハヒュブ子ル必
ス此邊ノ諸嶋ヲ指テ云ルヿ疑ナシ

夜國新增白蝦夷山

ヒュブ子ル曰ク歐羅巴人ノ鯨ヲ捕フル所ハ卧兒狼徳ノ新增白力ノ邊又ハ夷山ナリ其夜國ニ行モノハ和蘭人諳厄里亜人佛朗察人及ヒ都逸國ノハムヒュルグノ人ナリ

大日本捕鯨地

東海道

伊勢州

伊勢ニ鯨組アルニ非ス尾張ニ鯨方アリテ獲物ノ有無ニ拘ラス不断海上ヲ來廻リ若獲物アルトキハ伊勢ニテ人ヲ雇フテ運漕ス志摩海上モ伊勢ニ同シ

三河州

鯨記ニ元亀年中ニ三河國内海ノ者船七八

艘ニテ初テ鉾ニテ鯨ヲ突取ルト見エタリ
今ハ捕鯨ヲ業トスル者アルヿヲ聞カス

駿河州

定リタル鯨組アルニハ非ズト聞フ

安房州

勝山

此所ニ鯨捕ル者有テ其法モ粗備ル青木某カ勝山捕鯨ノヿヲ記シタル書ニ詳ナリト云ヘ未タ之ヲ見スシカレ𪜈西海南海ノ如ク盛ナリトハ聞エズ

上總州

本朝食鑑ニ上總ニテ鯨ヲ捕フルノヿヲ載ス

下總州

銚子

常陸州

上總以下ノ國々ハ屹度捕鯨ヲ業トスルモノアルニ非ス鯨ノ海灣ニ入來ルカ或ハ銛(モリ)

ヲ負シ鯨ノ寄リ来ルヲ捕ルヿト聞フ

東山道

陸奥州

磐城

定リタル捕鯨ノ法アルニ非ス其鯨ヲ獲ルヿアルハ常總ト同シ

今茲戊辰正月十五日南部田名部泊ト云所ニ鯨魚大小八十七尾潮水ニ乗シテ陸ニ上リ潮落テ去ルヿ能ハズメ皆斃ル此事ヲ聞テ大ニ利ヲ得ント思ヒ江戸ヨリ急ニ馳下リシ者アリシカ其所ニ到リ著テ見レハイカニモ百ニ近キ大魚ナリサレ共封割スルノ具ヲ求ルニ何一ツアラサレバコレヲ切ントスルニ刃物ナクタトヒ切リテモコレヲ藏ントスル器物ナクイカントモスベキヤウナク大ニ望ヲ失フテ帰シ後ノ心得トモナルベキヿ故此ニ記ス

カクノ如キヿアリ採藻使記ニ奥州赤前村ノ濱ヨリアル年鯨魚百三十九尾一同ニ濱ノ上ニ來リ三日ヲ経テ盡ク死スト見エタリ然ラバ奥州ノ海ニハ時アリテカクノ如キノヿアリ若シ鯨組ヲ設ル片ハ必ス鯨魚

ヲ多ク獲ルヿアリテ國益極テ廣カルベシ

南海道

紀伊州

熊野

大地浦

明暦ノ頃ニヤ大地村大庄屋大地覺右衛門ト云者アリテ盛ニ捕鯨ヲナセリ今其子孫アリ近頃大地覺右衛門鯨志ノ誤リ多ヲ以テ訂正セル書アリ今引所ノ刪訂鯨志即チ是ナリ

古座浦

大地古座ノ二浦ハ紀州鯨圖原本ニ出タリ

三輪崎

本草啓蒙ニ見エタリ

鯨記ニ文禄ノ初

尾佐律

或ハ熊野ニテ鯨取リ初ヲ載ス

土佐州

津呂

久保津

鯨組土州藩中ニ一組アリ津呂ニ一組アリテ隔年ニ両所ノ地ヲ易テ漁ス捕鯨ノ法ハ紀州ヨリ傳テ全ク備レリ

以上ノ諸州東海南海ノ漁トリ故ニ獲ル所ノ鯨ハ座頭長須児鯨鰯鯨及ヒ真向鯨梶鯨赤坊鯨サカマメゴトウノ類ナリ脊義ハ至テ少シ

北陸道

能登州

小木浦

此所ニ鯨捕ル者アリ然レトモ南海西海ノ如ク組方ノ法備リタルヿニハ非ス

越後州

高濱

此所モ定リタル鯨組アリ近閑ニス其鯨ヲ捕フルヿアルハ奥州岩城ト同シ

山陰道

丹後州

伊根

是亦高濱ト同シフト聞フ

鯨記ニ昔元亀ノ頃三河ノ者丹後但馬ヘ行テ漁シタリシカ利ナクシテ止ト見エタリ

鉾ニテ突フヲ初メシ者来リテ漁セシフナレハ諸州ノ内ニテ尤モ古キ捕鯨ノ地ナリ然レ𪜈利少ナキ故ニヤ今ハ南海西海ノ如ク盛ニ漁スルフアルヲ聞カズ

但馬州

鯨記ニ出ツ今捕鯨ノフアルヲ聞カズ

隱岐州

鯨記ニ隱岐國ノ下ニ長州ヒンシウノ両所ヲ出セリ

山陽道

長門州

通ヒ
瀬戸崎
川尻

三所ハ同シ海灣ノ内ニテ所ニヨリ其名ヲ異ニス畢竟四五年前マテハ鯨ノ灣中ニ入タルヲ捕ヘシ故鯨組アレトモ西海ノ如キニハ非サリシカ近頃平戸生月ノ益冨壹州ノ漁ヲ止メシニ因テソレ丈ノ漁父ヒ長州ニ來リテ捕鯨次第ニ盛ナリシ由ナリ

津島
當時ハ明浦ト聞フ

西海道
筑前州
搗目大嶋
小呂島冬浦

鯨記唐津捕鯨圖說並ニ此両所ヲ擧ク圖說ニ小呂島冬組許リト云ヘリ然ルニ今ハ皆明浦ナリ

肥前州

唐津領

小川島

鯨記ニ寛永年中明石善太夫吉村五兵衛ナト云者小川嶋或ハ壹州印通寺浦ニ組ヲ立シヨシ見エタリシカレハ古キ漁場ニテ法モ全ク備レリ唐津捕鯨圖説ハ即チ此島ノ法ヲ載タル書ナリ此所近来ハ日野屋九右衛門組ヲ立夫ヨリ中屋甚六ト聞フシカレ

ド両三年ニテ組代ル故當時ノ漁者誰タルヲ知ラズ

馬渡島

組屋替リテ誰ト云フ定ラス

鯨記ニ唐津領四ケ所ヲ擧ケテ小川島ノ外

呼子　名護屋　壁嶋

ヲ著セリ

平戸領

津吉

壹州土肥市兵衛ト云者ノ漁場ナリ

生月鳥

同島ノ益冨又左衛門此所御崎浦ニ組ヲ立テ春冬比ニ漁ス

的山大島

鯨記ニ此嶋ヲ分ツテ大島ト的山ト二島トス

按ニ此的山ノ大島及ヒ筑前鳩目ノ大嶋五嶋板部ノ大島コレヲ海西ニテ三大島ト云

然レハ鯨記ニ分テ二島トスルハ誤ナリ唐津捕鯨圖説ニモアツチノ大島ト云テ一嶋ノ名トセリ

鯨記ニ寛永中紀州ノ住人與四兵衛ト云者船二十艘ニテ此大島ニテ鯨取ルト見エタリ

小値賀

未タ漁スル者ノ誰タルヿヲ聞カス

右ノ外鯨記ニ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72　ガラス使用

八幡　蘆邊　大石　妙見　恵比須浦
浪ナシ　河内　黒島　鷹島　多久島
鴻島　大称板　イヤノ浦　獅子　薄香（ウスカ）
田助　野嵜

等ヲ載セタリ今皆組アルヿヲ聞カス鯨記
ニ的山大島ヲ分テ二所トナレ己ニ上ニ勝（カチ）辨セリ
本ヲ併セテ二十三所トス然ルニ勝本ハ壹
州ノ地名ナレハ平戸領地ト云ヘ共肥前國
ニ隷セス故ニ勝本ハ壹岐國ノ下ニ出ズ

又鯨記ニ寛永年中紀州藤代ノ人藤松半右
衛門ト云者船十二艘ニテ来リ多久島ニ居
テ鯨ヲ突取ルヿヲナスト見エタリ又平戸
ノ町人平野屋作兵衛飯盛ニ一組ヲ搆フト
見エタリ飯盛ハ何レノ地ナルヲ知ラス

大村領
柳浦
榎島（エ）
平島

平島ハ生月ノ益冨又左衛門組ヲ立テ漁ス
春浦ナリ
鯨記ニ大村領五ヶ所ヲ擧ク前ノ三浦ノ外
崎戸ー松島
ノ二島アリ昔深澤義太夫トヱ者アリ今其
業ハ廢スレ𪜈其子孫尚松島ニ住ス
五嶋領
魚目
魚目ハ大村ノ深澤義太夫網組ヲ始シ地ヲ
リ
有川
宇久島
板部大嶋春浦
唐津捕鯨圖說ニ板部大嶋ハ九州第一ニ宜
シ春浦ハカリト見エタリ
柏崎
準西海ニテ五嶋ニ五ヶ所アリト聞唐津捕
鯨圖說ニハ上ノ五ヶ所ニ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

黒瀬春浦

ヲ加テ六ケ所ヲ出ス鯨記ハ又上ノ六ケ所

ノ内柏崎ヲ除キテ

芋畠　下山　八幡　コモノ浦　神崎

鯛浦　トモスミ　ニタクヒ　赤島

黒島　冨江　玉浦　火島　牛津　大賓

タシナ

ノ十六ケ所ヲ加テ凡二十一ケ所ヲ著ス

網場長崎ノ近所ナリ

近頃漁セシ丁アリ雙海ニ結ヲ用ユ今ハ明

浦ナリ

薩摩州

鯨記ニハ

甑島　鬼ケ崎

樺嶋ノ三所ヲ載ス然ルニ樺嶋ハ薩州ノ地

ニ非ス今皆鯨ヲ漁スルヿナシト云唯

大浦

ト云所ニテ海肥魚ヲ獲ルヿアリ此地ハ潮

至テ急ナル所ナリ嘗テ海肥魚四十餘海潮
ニ乗シテ到ル潮急ニ落テ去ルヿ能ハス盡
ク斃ル昔ハカクノ如キノヿアル件ハ領主
ノ指図ニアラサレハ即時ニ割割スルヿヲ
得ス因テ肉皆腐爛スルニ至ル今ハ夫々定
リタル法モアレハ先割割シテ後其由ヲ白
スヤウニナリ大ニ手易ニテ漁戸目前ノ利
ヲ失ハズト云ヘリ薩人石塚某ノ話ヲ記ス

壹岐州

前海浦（マエノウラ）

勝本浦（カツモト）

此両所ハ昔大村ノ深澤義太夫開キテ漁場
トナシタル地ナリ其後領主ヨリ借受ニテ
本州土肥市兵衛生月ノ益冨又左衛門隔年
ニ其地ヲ易エテ漁ス今ハ両所共ニ土肥一
人ニテ漁ス鯨漁ノ盛ナル諸州第一ナリト
云

唐津捕鯨圖説ニハ右ノ両所ヲ出シ鯨記ニハ

印通寺（インドウジ）　ハセ　タナエ　住吉　長者原

ノ五ケ所ヲ載ス又寛永年中明石善太夫吉村五兵衛小川嶌或ハ印通寺浦ニ組ヲ立シ丁己ニ小川島ノ下ニ見エタリ

對馬州

鰐浦（ワニ）　春浦　鯨浦（クジラ）　春浦

唐津捕鯨圖説ニ二浦皆春組バカリト云ヘリ領主兼テ捕鯨ノ具ヲ設置キ今ハ壹岐ノ土肥市兵衛ニ貸シ與ヘ二浦ノ内ヲ毎年地ヲ易エテ漁ス

伊奈浦（鯨記ニ伊奈崎ニ作ル）

今ハ明浦ナリ

鯨記ニ上ノ三浦ノ外

茂戸カラツキ　尾崎

合セテ六ケ所ヲ出ス

以上ノ諸州西海北海ニテ漁スルノ地
ハ脊美座頭児鯨長須ノミヲ捕フ

洋中鯨路（ウミナカノクヂラミチ）

惟フニ大洋ノ中ニハ必ラス鯨ノ往来スル定リタル路アルヘシサレト幾千萬里カ匝リモ無キ大洋ノ了ナレハ鯨幾百種幾往来ノ路アルト云フ孰カ窮メ知ルヿヲ得ンヤ然リト云ヘ𪜈先其近キニ就テ云ハヽ我日本ノ海ニ住ム鯨ハ此海ニノミ往来スルヿト思ハル西海ノ鯨ハ立冬ヨリ南エ行キ大寒ニハ初南エ行タル魚北エ赴キ四月中旬ニハ北ニ帰リ盡ス然ラハ南エ行キ

テモ必ス北極出地十四五度ノ地マテ到リテ北ニ帰ルナルヘシ（鯨記ニ曰ク南エ行キ四五百里ニハ過レ暖氣ヲ避テ福州臺灣ノ辺マテモ行カスレテ帰ルモノカ）北ハ何レノ地マテ到ルト云フハ量リ知ラレサレ𪜈蝦夷ノ西海ニ脊美ノ多ク集ルハ夏ノフナレハ必ラス蝦夷地ヨリ北エ左程遠クハ行クマシ必ラス五十五六度ノ地ヨリ又南エ返ルナルベシ然ラハ西海北海ノ鯨ハ夏冬ノ往来十四五度ヨリ五十四五度マテ凡四十度左右ノ間ニ過サルベシ南海ニ住ム鯨ハ其往来ノ遠近大抵西北海ノ鯨ニ同シカルヘシ南海ニテ捕ルハ八九月ヨリ翌年四五月マテノ間ナリ十年以前品川ノ海ニテ鯨ヲ捕ヒ獲タルモ五月初ナリ奥州ノ海ニテ寄リ鯨ヲ獲ルモ多クハ夏ノ頃ナリ蝦夷ノ東海ニ座頭鯨多ク寄リ来ルモ夏ノフナリ然ラハ東海南海ノ鯨モ十四五度ヨリ五十五六度マテ凡四十度左右ノ間ニ往来スルフナルヘシ脊美ハ西海ニ多クシテ東海南海ニ少シ鰯抹香ナト云ヘル鯨（鯨記ニ曰ク真甲鯨ハ薩摩國

土佐國紀伊國ノ南海ニ有テ北海ニ來ラス西海北海ニハ居ラズ南海ニテ多ク捕レハ南海ノ鯨ハ西海ニ來ラス西海ノ鯨モ南海ニハ往カザレハオヅカ我日本ノ海ニテサヘ東南海西北海ノ鯨自ラ往來ノ路モ異ナリ況ンヤ大洋ノ中ニハ幾百種幾往來ノ路カ有ラン朝鮮ノ海ニモ鯨多ク往來スト云是却テ西海ノ鯨ト同一種ナルベシ如何ト云フニ我日本ノ地形東北ヨリ西南ニ長シ故ニ鯨北方ノ寒氣ヲ避テ南ニ來ルトキハ地方ニ傍ヒ西南ニ向ヒ西海ヲ經テ南ノ方ニ往キ春ニナリテ北ニ往クニハ焔心ヲ過レハ朝鮮ノ海ヲ經テ往クモ有ベシサレバニヤ壹岐ニ生月ハ冬ノ漁多ク對馬ハ春許リト聞ユ對馬ハ壹岐ノ二十五里北ニアリ朝鮮ハ又對馬ノ北ニアリ（對馬ト朝鮮トノ間四十八里トハ云ヘト余程近シトモ云）然ラハ朝鮮ノ海ニ往來スル鯨ハ必ラス對馬ト同シ鯨ナルベシ對馬ノ鯨ハ壹岐生月ト同シ滿州ノ海ニ往來スルハ朝鮮ト同シカルベシ（滿州ノ海ハ古ヘノ女直ナリ女直鯨晴ヲ産スルノヲ萃夷風土志ニ見エタリ）

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』　請求記号 130-72
ガラス使用

無人島ノ海ニモ二三月ノ頃鯨夥ク見エルト聞ク（無人島巡見記ニ見エタリ）是一種ノ鯨ニテ別ニ往来ノ路アルベシ支那ノ海ニ處ル鯨ハ何レノ海ヨリ何レマテ往来スルニヤ五月海岸ニヨリテ子ヲ産ミ八月子ヲ導キテ大海ニ返エルト云ヘリ（三才圖會等ノ書ニ見エタリ是或ハ妄説ナランカ）又楫川ノ鯨ハ二月海灣ニ来リテ子ヲ生ム所云ヘリ是又自ラ往来ノ路モアランカ又海南（イナ）ノ鯨ハ亦自ラ別ナルヘシ（鯨記ニ曰ク唐土ノ鯨ハ別種ナランカ）印度ノ海ニモ鯨處ルヿト見エタリ是一種ノ鯨ニシテ路モアルベシ夜國氷海ニオル鯨ハ春分ヨリ夏至マテハ西ノ方古夜國及ヒ揚末壹烟（ヤンマイニン）嶌ニ往キ夏至ヨリハ又東ニ往クト云ヘリ凡ソ鯨ハ寒暖ニ從ヒテ往来スレハ南北ニ往来スル筈ノヿナルニ左ハナクテ東西ニ往来スレハ山海ノ向背ニヨリテ同シ東西ト云ヘト寒暖ノ異同アレハ東西ニハ往来スレ所南北ニ往来スルモ同シ意ナルベシ雪際（スエヒ）亜ノノールトカープニ住ル鯨ハ何レヨリ何レニ往来スルニヤ亞墨利加ノ諸島ニモ鯨ヲ漁スト云ヘリ南亜墨利加ノ伽西兒（ラシル）ノ海ニハ如何ナル鯨幾往来ノ路アルニヤ

北亜墨利加オンテレイツケノ邊ニモ鯨オルト云自ラ其往來ノ路アルベシ此外ニモ鯨ノ往來スル路モ多カルベキ一ナレト窮メ知ルヿヲ得サレハ姑ラク見聞タル所ヲ記ス

捕鯨之候（イサラヲトル チセツ）

支那ノ海南ハ何月頃ノ漁ナルニヤ亜墨利加ノ諸島モ未タ其漁タルノ時節ヲ聞カス卧兒狼德（ヴルフ ラード）ノ新増（イハセンブ）白力（ラ）及ヒ尖山（スピツベルゲン）ノ氷海ニ居ル鯨ハ春分ヨリ夏至マテハ西エ行キ夏至ヨリハ又東エ来ル故ニ歐羅巴人ハ三四月ヨリ行テ五六月（此月次ハ秋月）次ヲ用テ譯ス彼ノ漁ナリ（コンストオール）ノ月次ニハ非ス（トブツク）ニ出ツ 秋南海紀州ハ背美鯨十月末ヨリ翌年四月マテコレヲ取リ座頭鯨昔ハ八月ヨリ来リ近年ハ九月ヨ

リ十二月マテ捕ヒ兒鯨ハ十一月ヨリ明年五月
マテ漁ス紀州鯨圖原本土佐ハ八月頃ヨリ翌年三四月
頃マテノ間漁ス之ヲ土佐ノ人ニ聞ク西海ハ背美鯨立冬
ヨリ段々艮方ヨリ来リ寒ニ入リ群リ来ル大寒
ニハ初南エ行シ魚ハ北エ赴キ西方ヨリ入乱ル
立春ヨリ皆北エ帰リ四月中旬ニハ帰リ盡ス鯨記
鰯鯨ハ二月ヨリ五月マテ見エル ナリ 西海鯨圖 今ハ鰯
鯨西海ニ居ル 漁ハ小寒十日前ヨリ始メ春彼岸
丁ヲ聞カス
十日前マテハ冬組漁シ彼岸十日前ヨリ春土用

ノ後二十日マテハ春組漁スルナリ之ヲ平戸ノ
ク。唐津捕鯨圖説ニモ彼岸十日山縣某ニ聞
前ヨリ春浦ニナルノヿヲ載ス海西ハコレニ
同シ長門ハ大抵海西ニ同シ之ヲ長門ノ能登モ
人ニ聞ク
冬ヨリ春エカケテノ漁ナリ之ヲ友人加賀ノ
大島無害ニ聞ク

捕鯨紀原

捕鯨ノコトハ姑ラク置テタヽ鯨魚ヲ称シタルヿ支那ノ書ニハ左傳ヲ始トシ（按ニ左傳宣公十二年ニ取其鯨鯢而封之トアリ註ニ殺ルヲハ鯨鯢ヲ以テ大國ノ小國ヲ併吞スルニ譬フ然レハ直ニハ非ス宣公十二年ハ我武天皇六十四年甲子ニ當ル）神天竺ノ書ハ雜寶經ニ見エタリ我國ニテハ神武天皇ノ大御歌已ニ初巻ニ見エタリ此大御歌ヲ始トスニ即キ天皇未タ位ハサル前ニアレハ魯宣公十二年ヨリ六十四年前ニアリ神武天皇元年辛酉ヨリ文化五年戊辰ニ至テ凡ニ千四百六十七年ナリ其後勇魚取ヲヨメルヿハ衣通姫ノ歌

已ニ初巻ニアルヨリ萬葉集ニ多ク見エタリ然見エタリ
ラハ凡ソ世界ニテ鯨魚ヲ称シタルヿモ亦鯨魚
ヲ捕ルヿモ我國ヲ以テ最初トスベシ我古ヘ
ハ鯨ヲ弓ニテ射テ取ルヿナリシカ我古以下大和本草ニ依ル
人皇百七代正親町院ノ御宇元亀年中鯨記
ニ明和元迄凡百九十五年ト云今按ニ明和二年
ヨリ文化五年マテ凡四十五年ナリ前ノ百九十
五年ニ通スレハ凡二百四十年ナリ
參河國内海ノ者船七八艘ニ
テ初テ銛ニテ突取リ其後丹後但馬ノ邊ニモ三
河ノ者行テ取リシカ氏利無シテ止ム又文録ノ

初紀州尾佐津或ハ熊野邊ニテ取リ元和二年西
國ニテ初テ取リシ此説ニ據ルヿハ大和本草ニ
慶長年中筑紫諸浦ノ漁人始
テホコヲ以テ突テ取ルト云ハ謬ナリヨリ寛永年中ニ至リテハ鯨
組トテ彼レコノ島爰ノ浦ニ人數ヲ構ヘ場所ヲ
定テ突取ルヿニナリ明暦万治ノ頃イヨイヨ盛
ニシテ七十三組マテ組ヲ立テ取リシナリ人皇以下
鯨記ニ依ル初肥前大村ノ深澤義太夫ト云モノ紀州
ニ行テ大地村ノ大庄屋大地覺右衛門ニ突組ノ
法ヲ受テ帰リ五島魚目ニテ突組ヲ始メ此事何年ノ頃

ノ了ナルニヤ上ニ云ヘル元和二年西國ニテ取ルノ了ハ義太夫始テ鉾ニテ取リタルノ了カ若シ然ラバ延宝ノ初紀州ニテ初テ網ニテ用ヒシマテハ己ニ六十年ニ及ベリ必ラス突組ノ法ヲ受タルニハ義太夫ヨリ覺右衛門網組ノ法ヲ傳タルニ其子ノ時非ザルベケレバ義太夫覺右衛門共ニ西國ニテ鉾ヲ用ヒ網組ノ法ヲ傳エタルカ若又義太夫其全法ヲ受タルハ明暦ノ頃ノ了カテンウトヽ云鉾ハ明暦ノ頃ノ頃義太夫始テ作ルト云説ニヨリテ左思フナリ然ラハ義太夫覺右エ門ニ一代ナルベシ然レ𪜈未タ其詳ナル了ヲ得ズ其後義太夫網ヲ打了ヲ工夫シテ網組ト云了起レリ其網初ハ菌麻俗ニ市皮ニテ造リシカ菌麻ハ弱キユヘ後ハ苧網ニ易エタリ覺右衛門此苧網ヲ學ヒ

ニ大村マテ来リ其法ヲ傳エテ帰リ肥前大村以下是ヲ義太夫ノ後松島與五郎カ茅村田元雄ニ聞ク元雄ハ大村ノ藩醫ナリ延寳ノ初紀州大地ニテ初テ網ニテ取リ夫ヨリ土佐ニ移リ大概網組ニナレリ延宝以下鯨記ニ依ル。鯨記ニハ紀州ニテ始テ網ニテ取リ土佐エ移リ其後五篤魚目ニテ坐頭小鯨ヲ多ク網ニテ取ルト云又紀州鯨國原本ニハ元禄三年ノ頃始テ網ヲ作ルト云未タ此後ハ突組網組ヲ合セ孰カ是ナルヲ知ラス

テ一ト為テ捕鯨ノ法全備セリ コレ我國捕鯨ノ来由ノ大畧ナリ

西洋人ノ鯨ヲ捕ルハ未タ其初ヲ詳ニセザレ𪜈

左ホド遠キ了𪜈聞エズ亜墨利加ノ諸嶋モ西洋

ヨリ後ナルベシ支那人ノ捕鯨ハ何レノ時ヨリ
始リシニヤコレ亦未タ詳カナラズ

起業財力（ノミヲタツルモトイリ）

余嘗テ西海ニテ捕鯨ノ業ヲ起スニハ財幾許（イクバク）ヲ
用ユト問ヘハ四百貫目（此四百貫目ハ八十文ヲ一匁トシテノ等用ナリ）
コレヲ足（タシ）百ニ直シ三萬二千貫ナリ今一両ヲ足
百六貫四百文ニ積リ三萬二千貫ニテハ金五千
両ナリト答フ然ルニコレハ其業ヲ起ス者モ又其
役（ヤク）ハルヽ者モ共ニ少ヨリ鯨海ニ長シ捕鯨ノ了
朝夕見聞シ羽指水主ハ固ヨリ其地ニ産スレハ
此業ヲ起スヿ甚易シ故ニ四百貫目ニテ起シ得
ベシ東國北國ハ是ニ異ナリ如何トナレハ東北

ノ諸州ハ常ニ捕鯨ヲ業トスル者ナク偶鯨ノ岸
ニ寄リタルヲ捕ルノミニテ大海ノ鯨ヲ捕ルヿ
ナケレハ固ヨリ其法モナク又常ニ慣レザル事
ナレハ今此業ヲ起サントスル廿ハ先西海南海
ノ内ヨリ羽指水主ヲ抱ヒ又其所ノ水夫ヲモ厠(マシ)
エ使ヒ日傭ハ全ク其所ノ者ヲ役ヒテ漸々之ヲ
仕込明年ハ其抱ヒ三ケ一ヲ減シ又明年ハ三ケ
二ヲ減シ後ニハ皆其所ノ者ニテ事濟(スム)ト云ヤウ
ニ基業ヲ立ンヿヲ嘗テ平戸ノ老漁ニ問シニ東

國ハ八百貫目ヲ用ユベシト云然レ𪜈吾ハ銀五
百貫目(金八千三百三十三両餘)アリナバ此業成シ得ベシト
思ハル姑ラク我東奥ヲ以テ云ハヽヨキ羽指水
主ハ其地ニナケレハ西海南海ヨリ抱ナバイカ
ニモ其給金ハ倍スベシ然レ𪜈麻銑米薪ノ類ノ
如キニ至リテハ皆一州ノ中ニ産スレハ此分ノ
費用反テ西海ヨリ減スベシ然ラハ財ヲ用ル西
國ヨリ多カルベシト云ヘ𪜈左ホドノヿハアル
マシ勿論此五百貫目ト云モ初此業ヲ始ルサノ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

費用ナレハ初一年ハ費ノミ多クシテ大分ノ利ハアルマシ其利ナキヲ厭ハス二三年モカクスルサハ去年ヨリ當年ハ利多ク當年ヨリ明年ハ又利多クシテ遂ニハ大利ヲ起シ得ベシ其内ニ脊美一本ヲ得テモ大魚ナレハ六十貫目ヲ得此六十貫目六十目一両ト積ルトキハ千両ナレ𪜈畢竟組方ノ法ハ丸一年ノ算用ナルベシ何レニセレハ西国ノ了ニテ東国ハ縦ヒ捕鯨ヲ始ムト云フ𪜈初メ未タ商人モ集テサル内ハ脊美ノ大魚モ西国ノ如キ價ニハナルマジ小ナルモ拾貫目後々ハ西国同様ニモナルベシ百六十六両二歩ヨリ下ラス然ラハ縦ヒ西国ノ如キ價ヲハ得ス𪜈脊美拾餘本ヲ得ハ初一年ノ費用大略償フニ足ル二年目ヨリハ諸道具拵繕スルヿアリト云フ𪜈已ニ基業ノ立タル上ハ飯米給金諸費用ヲ除キ其餘皆利ナリ然ルニ此業ヲ始ルニ五百貫目ニテ事足ルヘキヲモ六百貫目ヲ物本トシテ諸道具扶持米ニ至ルマテ何事モ有餘アリテ手支ナキヤウニスベシコレ數十百人ノ心ヲ引立ルノ權ニシテ業ノ繁昌スル基ヒナリ物本薄キトキハ何事モ滅乏シテ給セサレハ人々解體シテ捕ヒ得ベキ魚モ捨テ捕ヒス財用益困ムニ至

ルニレ尤モ心得アルヘキ事ナリ

捕鯨擇地（リヤウバノミタテ）

鯨組ヲ始ントナラハ第一ニ地利ヲ擇ブベシ擇テ地利ヲ得ルサハ勞少シテ魚ヲ獲ル事多ク利自ラ多シ地利ヲ得サルサハ徒ニ費多シテ魚ヲ獲ル事少ク利固ヨリ少シ故ニ鯨組ヲ立ルニハ地ヲ擇ブ事至テ肝要ナリ地ノ擇ビヤウハ先ツ第一ニ鯨魚多ク往來スルノ場所ヲ擇ヒ網ヲ打ノ處ヲ見立背美ハ水面近ク游キ行ク故別ニ網モ網ヲ打ベシ座頭ハ海底深ク潛行スル故網ノ丈尋ク程ノ地ヲ擇ヒテ網ノ打ニ備フ山見

生月島御崎澳場圖

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

ヲ置ク處流シ番船ノ繋リ處鯨ノ引寄セ場各々ノ納屋細工納屋羽指小屋庫等ノ建場薪ノ置場網ノ干場其外用船ノ係リ場ニ至ルマテ一々見立捕鯨ニ相應ノ地ナレハ組ヲ立テ捕鯨ヲ始ム左モナキニ強テ組ヲ立ル時ハ徒ニ費多シテ功ナシ善々初發ニ慮ルベキ丁ナリ

今平戸生月島御崎漁場ノ圖ヲ收メテ地ヲ擇フノ大方ヲ見ス

漁場屋舍（リヤウバノヤヤ）附諸器

納屋仕込及ヒ納屋道具并ノ丁肥前大村ノ村田元雄ニ聞タル所ヲ本トシ生月ニテ觀シ所ヲ圖シ其下ニ所シ平戸ニテ聞タル説及ヒ唐津捕鯨圖説ノ圖説ヲモ參エ載ス後此ニ倣フ

大納屋（横八間 縱三十間）　代銀凡三貫目

鯨記ニ曰ク横五間長サ廿三間

苫八千枚　代銀壹貫六百目（但壹枚貳分）

右ハ屋根ニ用ユ

米釜二枚

水桶二

風呂二

右ハ賄方ニ用ユ

煉釜拾五枚　代銀壹貫貳百五拾目

右ハ油ヲ煎スルニ用ユ

壺八本　代銀一貫二百目程

右ハ煎タル油ヲ溜置ニ用ユ

大切庖丁拾枚　代銀五拾目

刃金ヲ吟味ス長サ一尺二寸幅二寸柄長サ六尺許リ又一丈ナルモアリ長サ以下唐津捕鯨図説

右ハ鯨ヲ切捌ク時用ユ

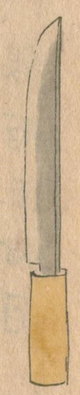
小切庖丁三百枚　代銀百五拾目

長サ九寸柄ハ五寸アリテ松ノ木ナリ刃ニ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

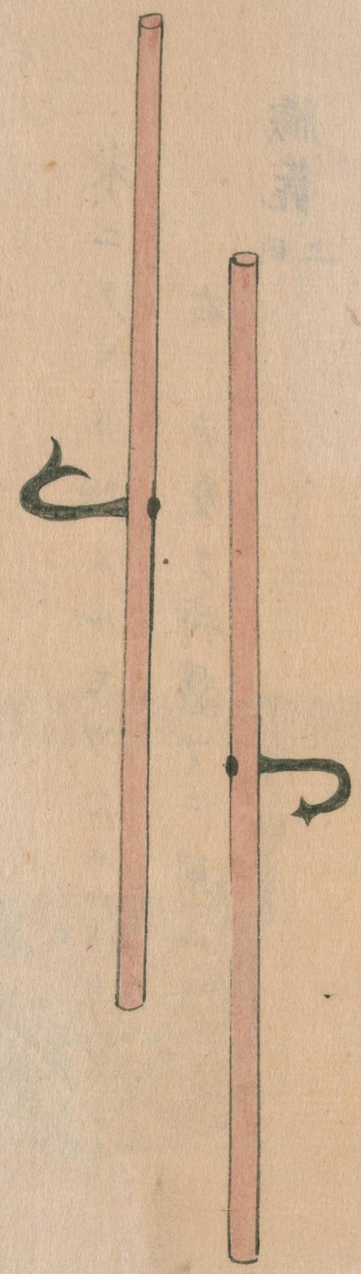
ガラス使用

ハ刃金少シ許リ入ル人ユトニ二枚宛ヲ左
右ノ手ニ持テ肉ヲ小切リ庖丁鈍クナレハ
右手ニ庖丁ヲ持チ左手ニ砥石ヲ持剃刀(カミソリ)ノ
手合ヲスル如クシテ礪(ト)キテ用ヒ又鈍クナ
レハ幾度モ右ノ如クシテ用ユルナリ



右ハ肉ヲ小切スルニ用ユ

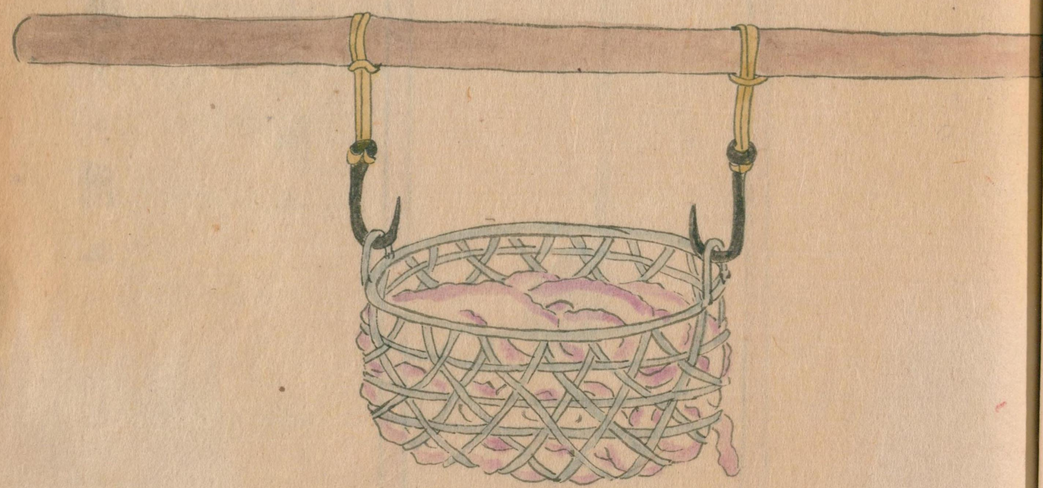
鉤棒 又名魚持又荷ヒ鉤ト云

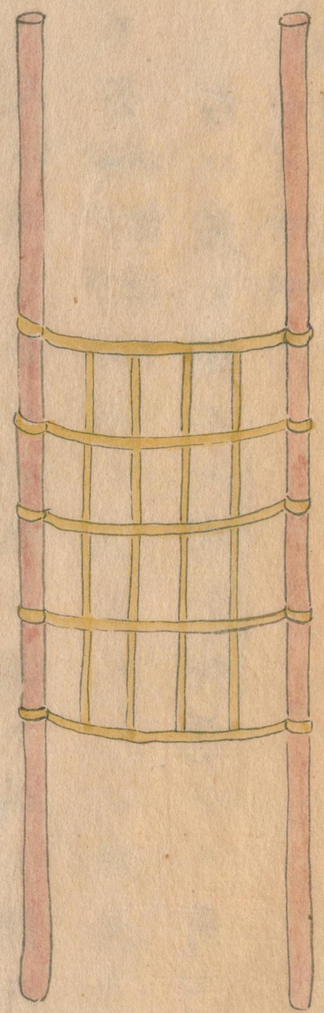


棒六尺ハカリモアルベシ鉤ニ股ヲ附タル
モアリ 鉤以下唐津捕鯨図説

右ハ鯨ノ捌タル肉ヲ持運フニ用ユ

赤身持 唐津捕鯨図説ニ出ツ





木ニクヽリ附タルモツカウナリ

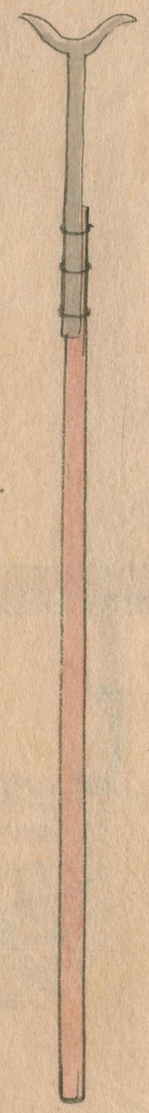
右ハ赤身ヲ持運フニ用ユ

臓籠 同上

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72　ガラス使用

右ハ臓腑ヲ持運フニ用ユ

股火箸 同上



柄ハ六尺許リ

火カキ 同上

柄六尺許リ

タブ

大ナル網杓子ナリ

右ハ油ヲ煎スルニ用ユ

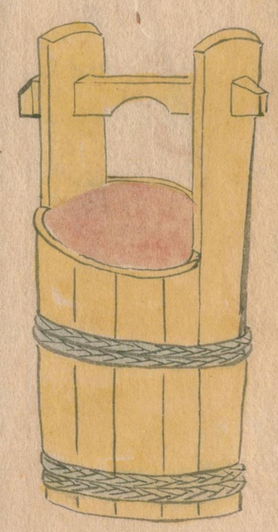
油汲桶 唐津捕鯨図説ニ出ツ

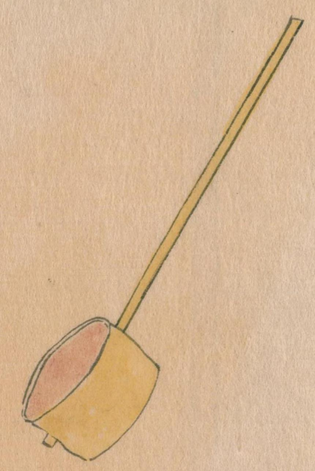
桶ノ内銅ニテ張ル

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用

油柄杓 同上





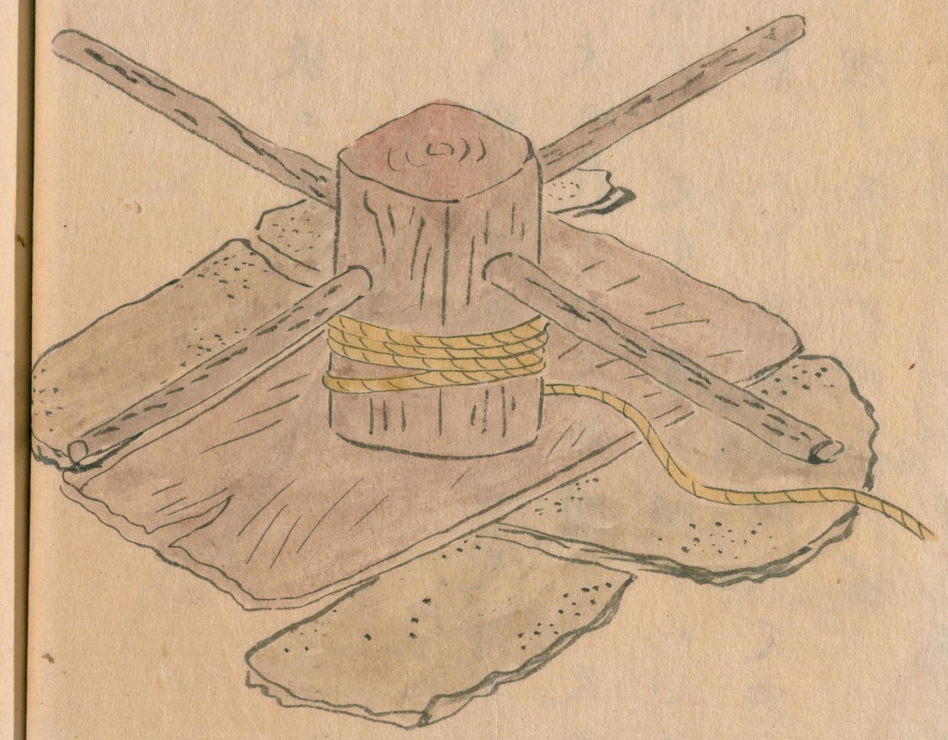
杓ノ内銅張

右ハ油ヲ汲ニ用ユ

万力車

心木高サ凡三尺許リ其圍ミハ四尺許リモアルヘシ此心木ニ長サ六尺餘圍ミ一尺餘アル二本ノ木ヲ十文字ニ貫キ綱ヲハ心木ニ縛ルヨレヲ居ルニハ先地ヲ掘六尺許リノ大木ヲ横ニ埋メ其上ニ心木ヲ掘リ立テ大石ヲ以テ動ヌヤウニヨレヲ押ヘ綱ヲ巻

クトキハ二十人ホトモカヽルナリ轆轤ノ
數定ラス生月嶋ハ三ツ居エ置ケリ
網三拾房　壹房重サ二拾貫目
右ハ鯨ヲ岸ニ引寄スルニ用ヒ又鯨肉
ヲ切放ストキ用ユ
以上ノ諸品ハ大納屋仕込ノ大略ナリ
小納屋
頭納屋（カシラ）
肋納屋（アバラ）



国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

骨納屋

筋納屋

頭納屋ハ頭ハカリ肋納屋ハ肋バカリ骨納屋筋納屋ハ骨ト筋トノミヲ藏ム

生月ハ骨納屋筋納屋ノミナリ所ニヨリ年ニヨリテ納屋ノ定メ異同アリ大骨納屋白骨納屋等ノアルモアリ唐津捕鯨図説ニハ筋大骨白骨阿腹尼四ノ納屋ヲ挙ク小納屋ハ右ノ納屋ノ都テ称ス小納屋ノ内ニ納ムル所ノ品ニヨリテ納屋ノ名モ自ラ分ル、ナリ

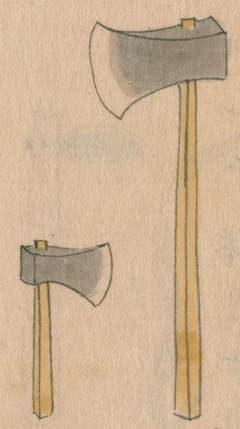
段切三梃大中小各一

大ハ長サ一間餘アリ刃ハ左右ニ分レ四人カヽリノ両挽ナリ頭等ノ骨ヲ挽クニ用ルナリ中ハ六尺幅五六寸アリ小ハ三尺モアルベシ

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』　請求記号 130-72　ガラス使用

骨剥斧（ミキ）大小アリ

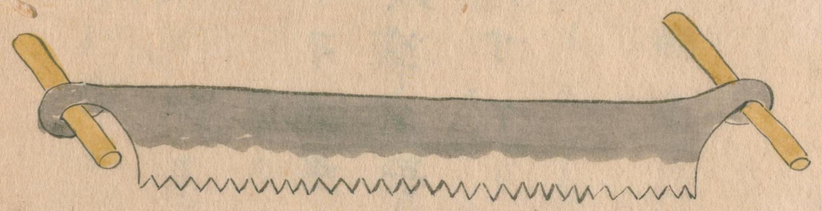
右ハ骨ヲ挽切ルニ用ユ



常用ノ斧ヨリ餘程小振ナリ柄ハ一尺五寸許リアリ唐津捕鯨図説小ハエレニ准ス

右ハ骨ヲ剥ニ用ユ

骨扣鉈（ダキナタ）百梃　壹梃代二百五拾文



常ノ鉈ノ如シ

右ハ骨ヲ叩クニ用ユ

肋剥

形チ圖ノ如クニシテ諸刃ナリ柄アリ

右ハ肋ノ肉ヲ剥ニ用ユ

萬力

綱繩ノ両頭ニ鉤ヲ附置其鉤ヲ両方ヨリ骨ニ打込棒ヲトオシニ人ニテ運フナリ

右ハ骨ヲ持運ニ用ユ

納屋鉤

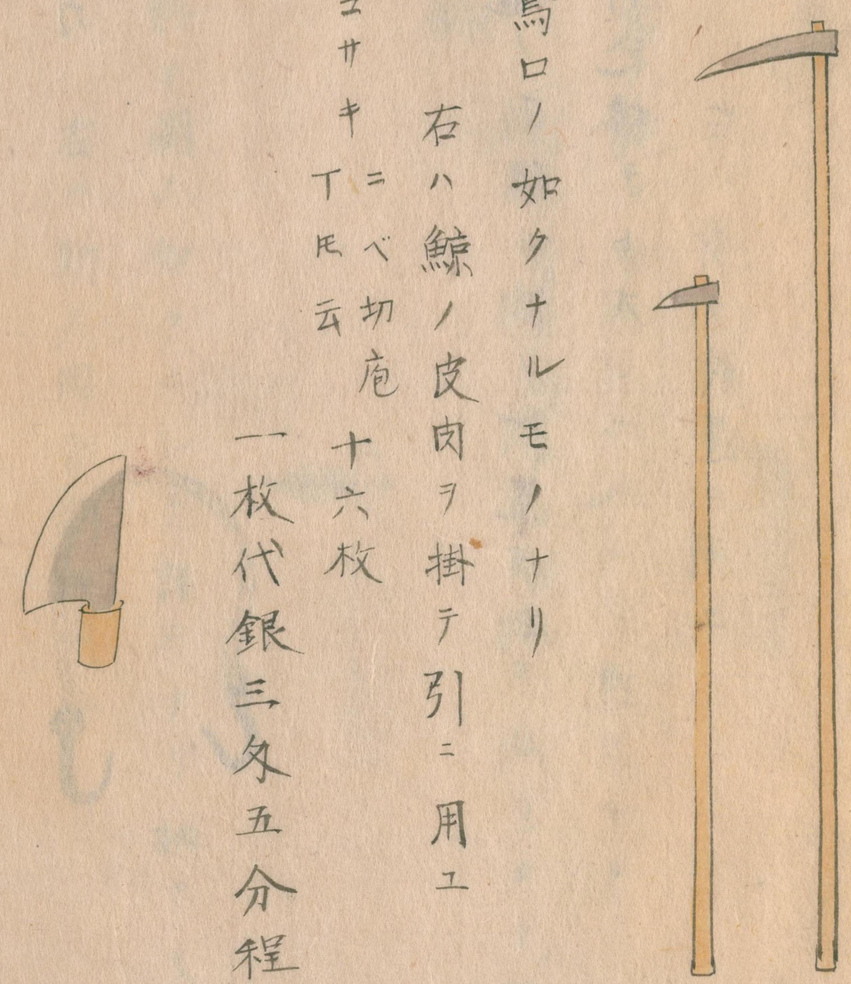
国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』　請求記号 130-72　ガラス使用

鳶口ノ如クナルモノナリ

右ハ鯨ノ皮肉ヲ掛テ引ニ用ユ

筋ユサキニベ切庖丁ニ云　十六枚

一枚代銀三匁五分程



長六寸アリテ柄ハ三寸ナリ刃ノ下ノ方ニハ刃ナシ血ト脂トヲ出ス為ナリ上ノ方ニ刃ノアルハ二ベヲキル為ナリ唐津捕鯨図説ニ見エタリ一人二枚充ナリ

右ハ筋ヨリ血ト脂トヲユキ出スニ用エ

以上諸品ハ小納屋仕込ノ大器ナリ

鯨記ニハ頭納屋骨納屋ノ外

樽納屋

大工納屋
鍛冶納屋
道具納屋
シメ納屋

アリ小納屋ハ商人集リ次第故數定メ難シ

以上
鯨記

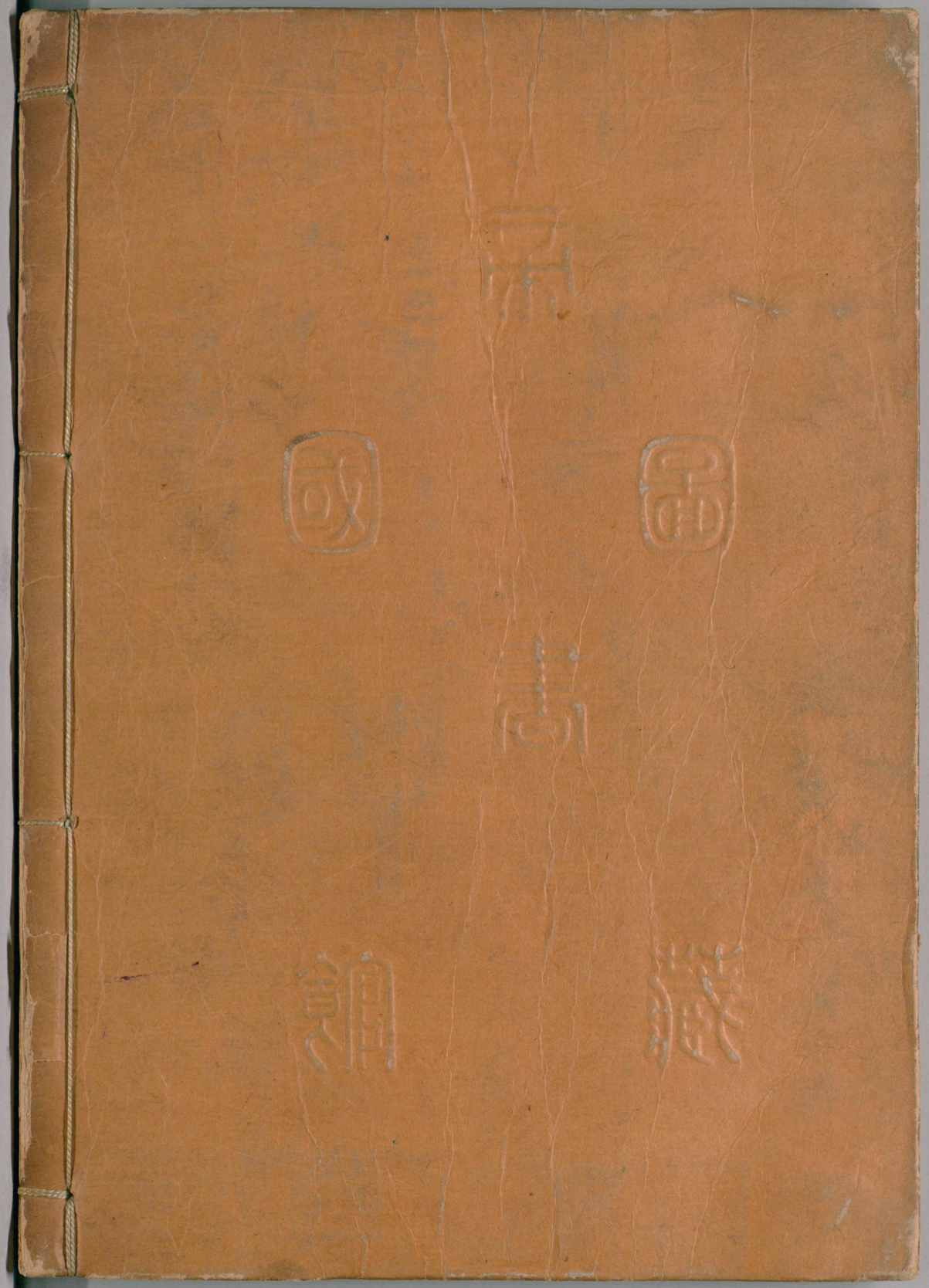
鯨史稿卷之四

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72
ガラス使用

130
6
72

国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『鯨史稿 6巻』 請求記号 130-72

ガラス使用